

巻頭言

図書館委員会委員 村野一臣
(本学教授)

目次:

巻頭言 1

私の推薦図書
前田 清実 先生 2

私の推薦図書
高橋 優子 先生 3

図書館からのお知らせ 4

広い明るくゆったりとした空間、そして多くの本に囲まれている空間に心が癒されます。本を読んでいなくても、この空間から伝わる作者や作曲者の息遣いが、表紙やジャケットから伝わってきます。そして、図書館は、知の貯蔵庫、様々な出会いが心を豊かにしてくれる場です。

高度経済成長時代に生まれた私は、昭和・平成・令和を生き、そろそろ断捨離を迫られる年齢です。教員として約40年、本棚は自分の歩んだ道が思い出されます。高校の世界史の教師としてスタートした20代、教材研究のため歴史関係の本を買いあさりしました。その後は、教育相談、特別支援教育、経営論、教育論と続き、今は健康、医療、生き方と続いていきます。

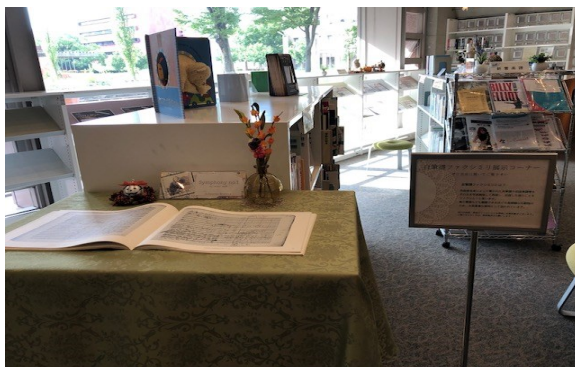
その中でも中学時代から人生の節目節目で手にする本は倉田百三の「出家とその弟子」です。中学の友人に薦められ初めて読みました。深い意味も分からなかったのですが、人は悩み、苦

しみ、何かにすがりたいという気持ちに共感したのでしょうか。これまで何度も読み返し、その都度背中を強く押しもらった作品です。

そして今もう一度読み返すと、また新たな発見があります。親鸞最期の時、放蕩息子善鸞とのシーンで幕は閉じます。親鸞が「お慈悲をこぼしてくれるな。信じてと言ってくれ」と願いますが、嘘をつけない息子は拒否をする。それでも親鸞は「それでよいのじゃ。皆救われているのじゃ。善い、調和した世界じゃ。おお平和！もっとも遠い、もっとも内の」と言って旅立っていきます。最後の「もっとも遠い、もっとも内の」とは誠に深い深い言葉で心に響きます。

「教育は、大きくなった時、幸せな気持ちでいられること」という言葉が心に残っています。文学も芸術も心を揺さぶり、心を豊かにしてくれます。本が語りかけてくれるこの空間を楽しみながら心の旅を続けていきたいと思います。断捨離はもう少し先になりそうです。

皆さんも多くの出会いを大切に、是非その一つとして図書館を有効に活用して、充実したキャンパスライフを楽しんでいただきたいと願っています。



<私の推薦図書> 【前田 清実 先生(ダンスコース)】

書名：『琥珀の夢-小説 鳥井信治郎上巻』

『琥珀の夢-小説 鳥井信治郎下巻』

著者名：伊集院静

出版社：集英社

刊行年：2017年10月5日

定価：1,760円上巻(税込)

1,760円下巻(税込)

ISBN：97840087711233(上巻)

97840087711240(下巻)

言わずと知れたサントリーの創業者、尊敬する大阪釣鐘町出身の鳥井信治郎の伝記小説上下巻である。内容をつぶさに書くには文字数が足りず、小説に出てくる宝の文書を紹介しつつ、私の本業であるダンスとの共通点、いや生きるとは何ぞやに繋げていきたいなど。

時は明治と遡り信治郎 13で丁稚奉公に出てウイスキーに出会い20歳の若さでサントリーの前身、鳥井商店を開店する。大波小波をもろともせずにここからの信治郎の生き様は心が震えます。正しく、大いなる愛を持った母の育て方。ここで基本の精神を植え付けられ、企業は人が喜んでこそその物、利他の精神を一生貫いた信治郎の魂が母の愛により育まれた事が垣間見える。

「ええもんには底力があるんや。品物も人も底力や」

基本があつて積み上げる。そこに底力が生まれ型が出来上がり、歌舞伎で言うところの本物の型破りが実行できる。基本無くしてアバンギャルドに走るのは型無し、ダンスに例え

るところ言う事でしょうと私なりの解釈。

「踏ん張って、踏ん張って、まだ足らんと思うて踏ん張るんや」

稽古に稽古を重ねても、もう一つ上を目指して稽古をして本物になる。負けそうになった時の私の自分自身への応援句であるnever give up、これが私のテーマ。

「辛いことが無かったらそれは何ひとつ身につかんのや」

稽古をしても伸び悩み、八方塞がりの状態が長く続いた時に逃げるのか？それとも己を律しその道に励むのか？まさにそこを、乗り越えてこそ身に付くものがある。成功は約束されないけれど成長は約束されます。そこを信じる事が出来るか否かが分岐点。どうか信じて突き進んで欲しい。そして最後に鳥井信治郎と言えどこの言葉。

「やってみなはれ！」

失敗を恐れず果敢に挑みなさいの意と私なりの解釈、縁あって出会った若者には知って欲しくてついつい昭和の私は語ってしまう。琥珀の夢は若者よ、熱狂と無謀と愛を持って生きるのだ、それが人生だと教えてくれる至極の一冊。是非読んで頂きたい。



<私の推薦図書>

【高橋 優子 先生(短期大学)】

書名：『子どもは子どもを
生きています』
著者名：小西貴士(写真 ことば)
出版社：フレーベル館
刊行年：2013年9月
定価：1,760円(税込)
ISBN：9784577813522



私が紹介するのは、「子どもは子どもを生きています」というフォトエッセイです。作者である小西貴士さんは、山梨県の清里にあるキープ森のようちえんのスタッフであり、主に子どもと自然を撮っている写真家でもあります。この本は、小西貴士さんが自然の中の子どもの生き生きとした表情を切り取った写真に、短い言葉を添えて紹介しており、自然や人と関わりの中で揺れ動く子どもの心に少し触れることができます。

私がこのフォトエッセイと出会ったのは、大学院で保育を学んでいる時です。本を開き、愛おしく広がる子どもの世界に引き込まれ、葛藤する姿、それぞれの子どもが折り合いをつけて生きるたくましさ、子どもの偉大さ、尊さに途中から涙が止まらなくなりました。痛いほどに、子どもの気持ちが伝わり、同時に子どもを温かく見つめる小西さんのまなざしが伝わってきました。

私は子どもと生活していた時に、これほどまでに子どもを温かく見つめられていたのだろうか。こんな子どもの笑顔や葛藤の表情を大事に保育できていたのだろうか。そんな気持ちになりました。

この本の中に「子どもが子どもであることを、懸命に生きているとしたら、私たち大人も大人である今を精一杯生きています。その二つは、いつも美しく響き合ったり、ピッタリ合うというわけにはゆかないものです。」という言葉があります。

日常の中でついつい大人の価値観やペースで物事を考えてしまいがちになります。そんな時に、一歩立ち止まって振り返ってみたい。子どもたちを尊重し、一人一人の子どもの心に触れるほど、大人が心に余裕を持てるように。子どもたちと共に「今」をめいっぱい楽しむことを忘れないようにしたい。保育者になる皆さんにもこの子どもたちの溢れんばかりの生き生きとした姿を心のままに感じてほしいと思います。

そして、目の前にいる子どもの生き生きとした表情を大切にしたいと思ってくれたらとても嬉しいです。

【図書館からのお知らせ】

<2022年度図書館利用者懇談会報告>

利用者懇談会を6月28日、29日、30日、7月6日に実施しました。
この懇談会は、図書館職員が学生の皆さんから直接図書館に関するご意見を聞き、運営に役立てることを目的としています。いただいた要望事項に関しては、着手できるところから改善していきます。

<図書館セミナー>

毎年図書館主催でミニセミナーを行っています。今年は、音楽・音響デザインコースの永岡宏昭先生による『今話題のデザインツールCanvaを使ってみよう』を9月14日と10月19日に開催しました。
手軽に利用できる無料デザインツールCanvaは名刺、チラシ、ポスター作成などができます。セミナーでは、デザインを考えながら実際にCanvaを使用して名刺を作成しました。参加者アンケートでは、満足した、わかりやすかった、基礎的な使い方を教えていただきありがたい等の回答をいただきました。今後も学生の皆さんの様々な活動に役立つ内容のセミナーを企画していきます。

<図書館サポーター>

2012年度から導入した図書館サポーター制度は、今年で10年になります。授業のある平日13時から19時の間に、サポーターとして登録している本学の学生が、楽譜、図書、CDの配架や検索PCでの資料検索のお手伝いなど図書館業務の一部を担ってくれています。図書館内でお困りの際には、職員のほかサポーターにもお尋ねてください。学生の皆さんと同世代のサポーターならではのお手伝いができると思います。